



審判委員会だより

発行日：12月20日 第1号
発行：(一財)長野県剣道連盟
審判委員会

審判委員会では、各種大会・予選会において審判主任に記録用紙を配布して、審判員への注意点や気づきなどをまとめてきました。

今回は、各大会等で多く挙げられた注意点などをご紹介します。

【審判員の動作等について】

- **主審の位置取りが遅い。**
それにより副審の位置取りも遅くなってしまう。
- **副審の立ち位置、動きについて**
主審を頂点にした二等辺三角形が崩れる。(副審同士の距離、主審との距離が離れ過ぎている。)
- **肘が伸びていない者がいる。**
- **宣告の声が小さい。**
- **合議が長い。**
- **動作が遅い。**
有効打突を取り消す際や場外反則を表示する際の動作が遅い。

【判定等について】

- **有効打突の見極め**
試合者に応じた有効打突の見極め(例：小学生と成年では打突の強度が違うことを念頭に)
特に、引き技の見極めには個人差がある。
相面に無反応(どちらかに旗を上げるべき)
- **反則の適用(特につば競り合い)**
つば競り合いを解消する際の反則の適用には個人差がある。

【その他】

- **控え席での姿勢・態度等**
腕や足を組む。背もたれにもたれかかる。
他の審判員と談笑する。

これらの注意点を、審判会議などで審判員と共有して改善を図ってきました。

審判委員会は、今後も審判技術の向上、普及に努めてまいります。